

## より良い回復のために～千葉県共用地域医療連携パスのご案内～

医療連携・患者支援センター 高橋 智美

脳卒中で突然の麻痺、転倒して骨折…。不意に起こるこうした疾患は、早急な治療と共に、リハビリテーションが欠かせません。千葉県では、2008年4月の保健医療計画において、患者さんを中心として医療機関の役割分担と連携を明確にし、必要な医療資源を有効に利用できる流れを構築しました。これを「循環型地域医療連携システム」といいます。

当院は急性期病院（緊急、重症な患者さんへ専門的な医療を提供する病院）で、患者さんが入院後に病状が安定すれば、リハビリテーションを主たる目的とする病院へ転院する場合があります。下記の図のように、それぞれの病院の役割を明確にして、その役割を充分に發揮し、よりよい治療が提供できるよう、地域のリハビリテーション病院と連携していますが、この流れを「地域医療連携パス」と呼んでいます。

千葉県内の病院では、統一した書式を使用し、患者さんの情報を作成して、次の病院に的確に情報が伝わるよう、配慮しています。

現在当院では、脳卒中、大腿骨骨折の患者さんに対する地域医療連携パスを近隣の病院と組んでいます。今後はさらに多くの疾患でのパスを利用し、地域ぐるみでその時に応じた必要な医療を提供していきます。

### 外来受診のご案内

■受付時間 初診 8:30~11:00 再診 8:30~11:30

※一部診療科では午後の受付となる場合があります

■休診日 日曜日、祝祭日、第3土曜／創立記念日（6月10日）

年末年始（12月29日～1月3日）

■代表電話番号 043-462-8811

予約変更専用 043-462-0489（平日14時～16時）

■健康保険証（原本）、その他の公費負担受給者証（原本）を必ず持参下さい。

■各科外来担当医はホームページ

<http://www.sakura.med.toho-u.ac.jp> をご覧ください。

### 編集後記

今年の夏に、ロンドンオリンピックがありました。過去最高のメダル数を獲得して、日本人選手の活躍はとても素晴らしいです。暑い日が多くて夏が終わり、秋は過ごしやすい季節です。汗をかくことは、体にとって大切なことです。サイクリング、ジョギング、ウォーキングなどで汗をかいてみてはいかがでしょうか？

（石田）

編集・発行：東邦大学医療センター佐倉病院 広報委員会  
〒285-8741 佐倉市下志津564-1 TEL.043-462-8811（代表）  
発行月：2012年10月【年4回（1・4・7・10月）発行】  
URL：<http://www.sakura.med.toho-u.ac.jp>

# SAKURAdayori

東邦大学医療センター  
佐倉病院の基本理念

- 質の高い医療を安全に提供する病院
- 地域に貢献する病院
- 人間愛を共有する病院
- 楽しく明るくチャレンジする病院
- 良き医療人を育成する病院

患者の権利

- 質の高い公正な医療が受けられます
- 個人の尊厳が守られます
- 個人のプライバシーが保障されます
- 必要な医療情報の説明が受けられます
- セカンドオピニオンが保障されています
- 医療行為について自己選択ができます

## 副院長の抱負

内科 鈴木 康夫



夢であった放射線治療開始へ向けた工事が始まろうとしています。放射線治療の開始により、がん治療拠点病院として佐倉病院は近隣の患者さん方と医師会の先生方に對し一層の高度医療を提供することが可能になるものと確信しております。

新執行部の一員・副院長として佐倉病院運営責任の一翼を担うことになりました内科の鈴木です。私の専門領域は消化器疾患関連ですので、患者の皆様方とは主に消化器センターでお会いすることになります。各種消化器疾患の中でも特に、潰瘍性大腸炎やクローン病という炎症性腸疾患の研究・診療を行っていますのでよろしくお願い申し上げます。

副院長としての私の職務は、主に佐倉病院の臨床・管理全般を統括することにあり佐倉病院が地域住民の皆様方から今まで以上に安心と信頼の寄せられる病院であり続けること、大学病院として高度先進医療を提供し続ける病院であること、の実現・維持に向け円滑な病院運営がなされるよう病院内の各種環境整備を担う職務であります。

佐倉病院は創立以来数多くの諸先輩方のご努力や近隣医師会の諸先生方の絶大なるご支援の賜物により、年ごとに外来患者数および入院患者数が増加し続け近隣住民の皆様方から大きな信頼を頂く医療圏における代表的中核病院の一つへと発展してきました。さらに本年度からは、佐倉病院の大きな飛躍を目指す新たな段階を迎えるとしています。佐倉病院の大きな発展の基盤になる新規事業の一つとして、佐倉病院長年の

医療人としてあるべき私自身の座右の銘は“志は高く、目線は低く”であります。患者さんの目線に合わせた医療の実践と医学への高い志を忘れずに日々精進する所存であります。微力ではありますが、佐倉病院が近隣住民の皆様方から最高の病院と言われるように努力いたしますのでよろしくお願い申し上げます。

医療人としてあるべき私自身の座右の銘は“志は高く、目線は低く”であります。患者さんの目線に合わせた医療の実践と医学への高い志を忘れずに日々精進する所存であります。微力ではありますが、佐倉病院が近隣住民の皆様方から最高の病院と言われるように努力いたしますのでよろしくお願い申し上げます。

## 充実の市民公開講座「脳梗塞はこわくない～診断と治療」

神経内科 露崎 洋平・榎原 隆次



神経内科 榎原 隆次

ロンドンオリンピックが始まってまもない盛夏の中、7月28日に開催された講座には、250名近くのご参加を頂きました。最近では、脳梗塞がテレビでも取り上げられていますが、「半身が重い」「しびれる」「口が重くなった」など、症状は様々で、その原因は生活習慣病という全身の状態が大きく絡みます。

そこで今回は、脳梗塞医療チームすなわち神経内科、脳神経外科、放射線科、薬剤師、理学療法士、看護師、臨床心理士、ソーシャルワーカーが集結し、当院で行われている脳梗塞のトータルなケアについて、それぞれの専門的な立場から講義して頂きました。神経内科の露崎・館野先生から「脳梗塞と生活習慣病」についての説明があり、肥満・メタボリック症候群や喫煙が、脳梗塞の引き金になることが示されました。これはちょっとこわい話ですが、気をつけると予防も可能です。治療については「血液さらさらの薬」が有効ですが、胃を荒らすことがあるとの注意が必要です。また、当院ならではの「血管治療」について、脳神経外科の羽賀先生から説明があり、その他、各専門家から脳梗塞に対するチーム医療が丁寧に説明されました。最後の質問コーナーでは、会場から多数のご質問・ご意見を頂き、参加された皆様には大いに参考になったものと思います。

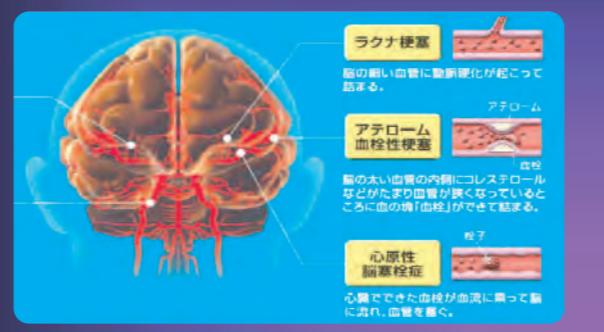
私たちは年3回の講座を担当しておりますが、このような機会を通して病気に対する知識と予防、さらに佐倉病院

とその医療を知り、了解と親しみを持って頂く事で、受診しやすい環境、早期発見の増加・予防につながると良いと考えております。今回のテーマである脳梗塞では、特に「まえぶれ脳梗塞」である一過性脳虚血発作(TIA)の時に、すぐに当院を受診して頂き、一刻も早く適切な治療が始まられるかと思います。さらに、公開講座は医療チームとして皆様と接することが出来ますので、我々のチーム力向上にも大いに役立っています。

当日のスライドとアンケートの集計結果は、病院のホームページから見ることができますので、ぜひご覧ください。市民の皆様に安心して受診して頂けるよう、今後も、東邦大学佐倉病院は、診療内容を充実させてまいります。次回の神経チームの講座のテーマは「認知症」で、11月24日に予定されています。大きな社会問題となっておりますので、皆様と一緒に考えて行きたいと思います。

### 脳梗塞とは？

脳の血管が詰まってその先に血液が流れなくなり、脳に障害が起こるもので、下の3タイプがあります。



### 2012-2013年 市民公開講座のお知らせ（入場無料・申込不要・200席）

開催予定日	講演予定テーマ	担当
10月27日(土)	〈漢方治療でできること〉 「内科診療における漢方治療の有効例」 「女性の健康と漢方」 「養生と漢方」	漢方科・内科・皮膚科 露仙堂クリニック あきば伝統医学クリニック
11月24日(土)	認知症とともに歩む “診断と治療”	神経内科・神経放射線・メンタルヘルス・ 脳神経外科・薬剤部・リハビリテーション部・ 看護部・メディカルソーシャルワーカー
12月22日(土)	「冬に怖いウイルス感染」	感染対策室ほか
1月26日(土)	「消化器病の新しい診断と治療」	消化器内科ほか

8月を除き毎月、身近な疾患や症状をテーマにした市民公開講座を企画しております。多くの方にご参加いただき、病気の予防や早期発見、普段の生活に役立てていただければと考えております。

いずれの講座も14時から当院東棟7階・講堂で開催いたします。詳細は、テーマごとに院内掲示およびホームページなどで案内いたします。お問い合わせや講演テーマのご要望がございましたら、総務課にご連絡下さい。

## 救急センターの新たな取り組みと、問題点について

救急センター 副部長 松澤 康雄・遠藤 深 部長 岡住 慎一



とも含め、救急医療の現状と背景をご理解頂きたいと思います。

救急医療は、最善をつくしても、ほとんどの場合で赤字になります。当センターは、軽症から重症まで、幅広い重症度の患者さんを受け入れる救急体制を特別な援助を受けずに維持しています。深夜に救急の現場で働く医師は、その前の日の早朝から勤務を始め、夜が明けても、次の夜までさらに勤務を続けています。全国的に多くの病院が医師不足に苦しみ、救急医療の崩壊が進むなか、当院の救急センターが、医師を集め、少しずつ前進を続けてこられたのは、地域の皆様からの多大なご理解とご協力、病院執行部からの最大限の支援、それに裏打ちされた、現場の医師、スタッフの高い意識とプライドが維持されてきたからです。重症患者さんの救命処置に全力を注ぐ一方、「軽症にみえて重症の場合もある。診てみないと、調べてみないとわからない。」そのような思いで、深夜の「風邪」にすらも丁寧に対応しています。軽症にみえて予想外の重病である症例を早期に発見し、大変、感謝される事もあります。当センターならではの努力が報われる瞬間です。

しかし、明らかに軽症であるのに救急車をタクシ一代わりに使用される方や、昼間は混雑するからという理由で夜間や早朝の救急外来を受診される方、時に診療を妨害するような行為に及ぶ方もいらっしゃいます。救急外来はコンビニではなく、病棟はホテルではありません。東邦大学佐倉病院は急性期～亜急性期疾患を主に扱う病院であり、我々は日々様々な制約の中で、ただ使命感とプライドを持って、真の救急患者さんのための努力を続けて参ります。

充実した救急医療を継続していくためには我々の取り組みのみならず、今後も皆様の一層の深いご理解とご協力も重要ですので、この機会にお願い申し上げさせて頂きます。

